

**※長期間、「校長室から」がストップして大変申し訳ございません。自身の怠慢を反省して、気を引き締めなおして頑張ります。**

★安全安心の学校方向性ニュース(生徒のみなさん・保護者のみなさまへ)

## 今年度宿泊行事無事終了のご報告

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校の通常授業だけでなく様々な学校行事が、特別な対応を余儀なくされました。中でも大きな影響を受けたのが宿泊行事で、大阪府下でも多くの市が、市として宿泊行事の中止を決定するなど対応も様々でした。

西中学校でも、6月中に予定されていた修学旅行や1年宿泊学習を、それぞれ9月・10月に延期し、修学旅行に関しては、長崎から長野に行き先を変更し、移動手段もバスに変えました。様々な感染症対策を行い、現地での発症に備えて、保健所とも連携を取り、また修学旅行のキャンセル料に対する保護者負担を避けるために、10月末の予備日にさらに予備日を設定しました。

結果的には、修学旅行も宿泊行事も生徒が全員参加し、しかも予定された行程をすべて行うことができ、大成功で終わることができました。私も、先日1年生の宿泊学習に初日だけ参加させていただきました。野島断層の姿を興味深げに直に見学する生徒たちの様子に、震災を知らない世代(東日本大震災ですら、小さい頃だったので記憶にないようです)である彼らにとって、いい機会だったなあと感じました。ソーシャルディスタンスを配慮した食事の様子に安心し、迷いながらも班ごとで楽しそうに歩くオリエンテーリングの様子に微笑ましい気持ちとなり、夜のレクリエーションの中では、有志が自分の特技を発表し「こんな技を持っていたのか」と驚きました。出演者を温かく応援する姿、そして生徒と教師が仲良く楽しむ様子に、この先の成長に対する期待を感じました。そして、学校の外に出て様々な活動を行う宿泊学習での子どもたちの成長ぶりを目の当たりにし、単なる思い出作りに留まらない教育的な意義を改めて感じました。

これらの行事の成功の陰には、保護者のみなさまの様々なご配慮があったることと感謝しています。日々の健康管理はもとより、感染予防対策へのご理解があって初めて行事が行われたことと感じています。この先も、西中学校を支えていただき、子どもたちの健やかな成長に「教職員」と「保護者」と「地域」

が、がっちりスクラムを組んでいけたらと思っています。

## ★西中プライド(生徒のみなさんに望むこと)

双方向の学校だより 保護者からの応援メッセージ

### 「西中学校の好きなところを一つ」

自然が豊か、広いグラウンド、桜の木

河内長野は、特にこの西中校区は大変自然が豊かです。幼いころからこの環境で育った子どもたちは、みな素直でのびのび過ごしているのを感じます。また、広いグラウンドは、都会の学校に通う人たちから、うらやましがられる要素です。緑に囲まれたグラウンドで、少々大きな声で楽しんでも大丈夫な環境は、これまた健やかな成長を助けます。そして、桜の木。転勤早々、職員室のグラウンド側から眺めた桜の木の美しさに、西中学校に転勤して来られたことを嬉しく思う気持ちが増幅されました。素晴らしい環境に感謝しながら、より一層みんなで頑張っていけたらと思います。

## ★魔法のじゅうたんについて

私が、あちこち行った中で三本の指に入るぐらい印象的だった国が、ヨルダンです。中東にあり、北をシリア、東をサウジアラビアとイラク、西をイスラエルとパレスチナ、南を紅海と接しています。世界情勢に詳しい人に言わせると、紛争の危険を感じる場所です。しかし、私が行ったときは、国内は危険な様子はほとんど感じませんでした。ただ、死海のそばの、イスラエルとの国境付近では、銃を持った兵隊がいました。



私がこの国に行きたかった理由は、6つあります。私の好きな映画「アラビアのロレンス」の舞台「**アカバ**」があること。「インディージョンス 最後の聖戦」のロケ地でもある世界遺産「**ペトラ遺跡**」があること。映画「オデッセイ」など数多くの映画のロケ地であり、まるで火星のような赤い砂漠「**ワディラム**」があること。映画「十戒」の舞台となった「**シナイ半島**」があること。中学時代に社会科の授業で習って興味を持った「**死海**」があること（ちなみに「死海」はイスラエルとヨルダンに挟まれています）。そして、「**珍しい滝**」があることです。

今回は、その中の「アカバ」を紹介しましょう。映画「アラビアのロレンス」はアカデミー賞7部門を受賞した有名な作品です。実在したイギリス人少尉の活躍をもとにした実話です。この映画の舞台となったのがこの「アカバ」です。

第一次世界大戦中の出来事で、当時イギリス軍にとってはトルコによる支配を受けていた「アカバの要塞」を攻略することが大きな課題でした。しかし、アカバの要塞は大変堅固で、前方は紅海に面し、要塞からの多数の大砲が、イギリス軍の上陸を阻んでいます。そして、後方は一面の気の遠くなるような、長い長い死の砂漠。ロレンスは、アラブ人を助け、この死の砂漠を800kmも移動して、難攻不落と言われた「アカバの要塞」を攻略したのでした。

私は、この映画を観て、どうしてもこの「アカバ」と世界有数のダイビング・スポットである「紅海」を見たくなって現地に行きました。

首都のアンマンまで飛行機で行き、そこからレンタカーで8時間ほどかけてアカバまで行きました。両側に美しい砂漠の景色が続く、舗装された（20年前は、少し道路が荒れていてガタガタしました）一本道でした。

アカバの要塞跡や紅海を自分の目で見て、少しがっかりしました。アカバの要塞は、私が思っていたほど大きくありませんでした。また紅海は、私が見たかった有名なダイビング・スポットは、実際にはアカバよりも水深が深い、もっともっと南の方のエジプト寄りでした。アカバの港は、水がきれいでしたが、水深は浅くサンゴはそんなに美しくなかったように思えました。ただ、このアカバが、歴史の大きな舞台であることは確かであり、映画で描かれた歴史的事

実があった地としては、見た目は関係なく、すごい場所に来たのだなと実感しました。

夜になり、街を散歩しながら真っ暗な海を見ていたのですが、右側にある高い崖の上に、町の明かりがまぶしく光っている目に入りました。この辺りでは「アカバ」が一番大きな町だと思っていたので、不思議に思い地元の人に聞くと「あれはイスラエルの街の明かりだよ」と教えてくれました。アラブとイスラエルが目と鼻の先にあり、豊かなイスラエルの国に対する、豊かさではかなわないヨルダンという対比が見えて、複雑な心境になりました。